

探訪 北の風景 ⑧

コンサドーレと 白い恋人パーク 札幌市西区宮の沢

青木和弘

雪が前日から断続的に降り続き、札幌市西区宮の沢にある「白い恋人サッカー場」は、20センチほどの積雪にすっぽり覆われてしまった。北国の住民も本格的な冬の到来を覚悟する朝になった。

ここはJ2・コンサドーレ札幌の専用練習場で2000年10月に完成した。天然芝にヒーティングシステムを導入しているため、少々の降雪なら使えるのだが、これだけ積もるとそうはいかない。この日の練習は、急ぎよ人工芝グラウンドのあるユースチームの練習場（東区東雁来）へ変更になってしまい、翌日の試合も中止になった。

それでも、オフィシャルショップやレストラン、菓集お菓子が開く10時ごろになると、ぼつぼつとサッカーファンが訪れていた。スタンドは3000人収容で、トップチームの練習や控え組みの試合なども見ることができ、積雪がなければ3月から根雪になる12月まで使用できる。トレーニングルームなどが完備し、ヨーロッパのクラブチームなみの施設と言われている。

チームを運営する北海道フットボールクラブ（HFC）、野々村芳和社長）の本社も、本年1月、札幌ドームから移転してきた。野々村社長は「日本が一番、サポーターとの距離が近いクラブになる」とスタッフにハッパをかけている。

今シーズンは、目標のJ1復帰はならなかったが、元日本代表の小野伸二二選手の途中加入もあり、来期に寄せるファンの期待は大きい。

このサッカー場は、コンサドーレ札幌の有力スポンサーで、北海道の土産菓子「白い恋人」で知られる石屋製菓が、総工費35億円をかけて建設。工場や見学施設など英国チューダー様式風の建造物が立ち並ぶ「白い恋人パーク」の一角にある。同パークは1995年にオープンし、昨年11月に有料入場者だけで500万人を突破。いまでは札幌の人気観光地になった。この日も、観光バスが



雪の積もった白い恋人パークのローズガーデン

ひっきりなしに出入りし、団体客が訪れていた。台湾からと思われる家族連れは、雪をかぶった庭園の景色や、音楽に合わせて動く時計塔のからくり人形に歓声をあげていた。

11月21日から3月22日まで16時半からイルミネーションが点灯し、雪に包まれた施設を彩る。夏季は200種類以上のバラが咲き誇るローズガーデンが見事だ。いたる所に音が鳴って動く仕掛けがあり、SL弁慶号を模した6両編成のミニ鉄道も運行している。

館内には有料と無料の施設がある。有料なのは白い恋人製造ラインの見学路や「お菓子作り工





英国チューダー様式風の建造物が立ち並ぶ白い恋人パークにある白い恋人サッカー場は思わぬ雪に覆われていた＝2014年11月15日



いたる所からくり人形や動くオブジェがある

房」、風景を見渡せる「チョコレートラウンジ」などがあるフロアだ。いろいろな展示物があり、チョコレートが飲み物だった時代に貴族たちが使ったカップのコレクションなども見ものだ。

無料の施設は、「チューダーハウス」1階の売店から入れ、明治・大正・昭和のおもちゃを展示した「昔のおもちゃ箱」がある。売店にはアメ作りを実演する「キャンディ・ラボ」もあって、色とりどりのアメは一見の価値がある。

白い恋人パーク（札幌市西区宮の沢2-2）は、札幌市営地下鉄東西線の終点、宮の沢駅から徒歩7分ほど。札幌から小樽方面に向かう道道124号（旧国道5号）沿いにあるので分かりやすい。